



■相対変位計

堤体内における水平、あるいは任意の2点間の相対変位を測定します。水平多点相対変位計と同様の方法で測定を行いますが、データの読み取りはすべて電気信号に変換したものとなります。また、移動量がわかれば、変位計のデータを重ね合わせて絶対変位が求められます。

■せん断変位計

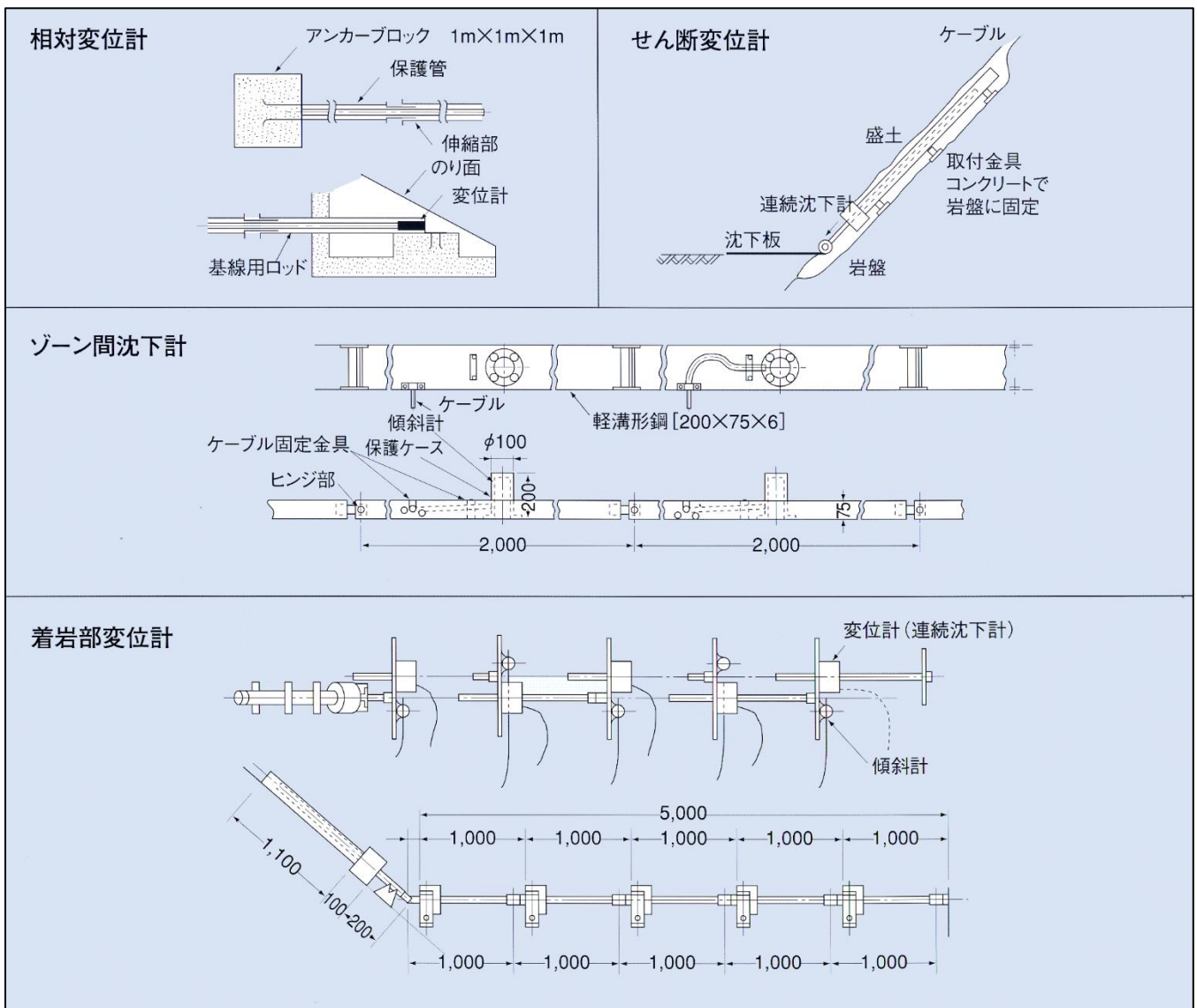
岩盤と盛土の間に起こる相対変位を測定します。岩盤側に変位計（連続沈下計）とロッドの保護パイプを固定し、盛土内に沈下板を設置します。沈下板に接続されたロッドは、保護管内を通り、変位計にローレットを切ったブーリが回転して、変位計が沈下量を検出します。

■ゾーン間沈下計

堤内のゾーン間の相対変位を測定します。沈下が予想される位置に、上下流方向に対して水平に0.5~2mピッチで傾斜計を固定した沈下板を埋設し、各所の傾斜を測定して、沈下状態を測ります。傾斜計は保護ケースに収納され、各沈下板はヒンジによって接続されます。

■着岩部変位計

堤体と岩盤に生じる相対変位分布を求めるシステムです。センサの構成は、岩盤と盛土とのズレを測る部分のせん断変位計と、そのロッドの下端より、ダムセンサー方向に順次連続的に設置していく変位計、および傾斜計から成ります。これらのセンサが検出するデータから全体的な相対変位分布がわかります。



■せん断変位計

※センサ部仕様は、連続沈下計 ESD-7000 を参照してください。

■相対変位計

※センサ部仕様は、変位計 EDL-5100 を参照してください。

■ゾーン間沈下計

※センサ部仕様は、傾斜計 EIN-5000 を参照してください。

■着岩部変位計

※センサ部仕様は、連続沈下系 ESD-7000、傾斜計 EIN-5000 を参照してください。